

## こんな時こんな絵本 その3 「けんかせずに仲良くしてほしい」 2024年3月号

保護者の方からよく聞きます。「けんかせずに仲良く遊んでほしい」と。子どもは小さい時から同年齢の子どもが好きで関心を持ちます。関心がなければけんかも起こりません。

友達と一緒に遊ぶようになると、友達のしていることが気になったり、自分とやり方や思いが違ったりすることでトラブルが起こります。友達は自分の思い通りに動いてくれません。

絵本「コッコさんのともだち」。コッコさんは ほしいえんで ひとりぼっち。子どもの繊細な心情、「寂しい」「恥ずかしい」「嬉しい」「悲しい」「楽しい」が愛おしくらいに伝わってきます。友達ができて、嬉しくなって、けんかをして、いつのまにか仲直り、こうして子どもはどんどん成長していくのですね。

「けんかのきもち」。なくても なくても なきたいきもちが なくなるない。泣いたってくやし  
い気持ちはおさまりません。くやしそうな表情、仲直りした時のちょっと照れたような表情、さまざま感情が交錯します。子どもの偽りや飾りのない思いを知り、なんだか切なくもなります。けんかしながら対人葛藤や、人間関係の楽しさ難しさ、気持ちのリセットやコントロールを体験し、相手を認め受けとめていく。けんかは子どもの発達上とても大事なものです。年齢や発達に伴いけんかの原因や内容も異なります。

子どものけんかとはいえ、状況に応じて大人の介入は必要です。大人は子どもひとりひとりの気持ちを受けとめましょう。そのときどきの思いを汲んであげましょう。大人が介入しない方がよいけんかもあります。子どもの年齢や発達、状況に応じて対応していきたいものです。

今の時代、子どものけんかを気に掛けることはしていきたいものです。安心できる大人の見守りは大事です。

それと共に私たち大人は、仲良い対人関係、談笑している姿を子どもたちに見せていきましょう。子どもたちは大人の笑顔が大好きです。

「コッコさんのともだち」 片山 健 さく・え 福音館書店

「けんかのきもち」 柴田愛子 文 伊藤秀男 絵 ポプラ社